

教科	国語科	学年	第1学年
----	-----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
なかよしの き	3	<ul style="list-style-type: none"> ○挿絵を見ながら気づいたことを話し、話を想像しながら物語を楽しむとともに、国語学習への関心や意欲をもつ。 ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く。 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。 ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。 ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有する。 	○姿勢や口形、発声に注意して話している。	○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。	○進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を話し合おうとしている。
たのしい いちにち	2	<ul style="list-style-type: none"> ○学校生活のさまざまな場面の挿絵をもとに、挨拶の言葉を考え、場面に合わせた挨拶ができるようにする。 ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く。 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。 ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶ。 ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫する。 	○姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。	○「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫している。	○積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって挨拶をしようとしている。
わたしの なまえ	2	<ul style="list-style-type: none"> ○自己紹介の場面の挿絵をもとに、話し方や聞き方について話し合い、言語生活を広げる。 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。 ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫する。 ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつ。 	○姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。	○「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫している。	○積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって名前を紹介し合おうとしている。
おはなし たくさん ききたいな	2	<ul style="list-style-type: none"> ○さまざまな本の読み聞かせをおして、読書への関心を高める。 ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。 	○読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。		○積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって感想を発表しようとしている。
こえのおおきさ どれくらい	1	<ul style="list-style-type: none"> ○挿絵をもとに、場面に応じた話し声の大きさを意識する。 ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫する。 		○「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫している。	○積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見通しをもって話そうとしている。
かいて みよう	3	<ul style="list-style-type: none"> ○正しい鉛筆の持ち方、正しい姿勢に気をつけて線をなぞったり文字を書いたりする。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 ○姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書く。 	○平仮名を読み、書いている。		○進んで平仮名を読んだり書いたりし、学習課題にそって言葉を書こうとしている。

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
こえを あわせて あいうえお	1	<ul style="list-style-type: none"> ○「こえを あわせて あいうえお」を、姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意してはっきりした発音で読む。 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。 ○語のまとりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。 ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語のまとりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見直しをもって音読しようとしている。
あいうえお	1	<ul style="list-style-type: none"> ○母音や簡単な平仮名の読み方、書き方を理解する。 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。 		<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に姿勢や口形、発声や発音に注意して、学習の見直しをもって声に出して読もうとしている。
みつけて はなそう、たのしく きこう	3	<ul style="list-style-type: none"> ○挿絵から見つけた話題にそって話し、相手の話題に対して、簡単なことを尋ねたり、応答したりする。 ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く。 ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶ。 ○互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に互いの話に関心を持ち、学習の見直しをもって尋ねたり応答したりしようとしている。
かぎ、かぎ	2	<ul style="list-style-type: none"> ○清音と濁音、半濁音の違いを理解して、正しく読んだり書いたりし、主語と述語の関係や文の終わりに句点がつくことを理解し、正しく文を書く。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 ○文の中における主語と述語との関係に気付く。 ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとりが分かるように書き表し方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとりが分かるように書き表し方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に濁音・半濁音の表記、句点の打ち方を理解し、学習課題に沿って簡単な文を書こうとしている。
ことばを あつめよう	2	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉には意味による語句のまとりがあることに気づき、つながる言葉を考えて読んだり、書いたりする。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとりがあることに気付き、語彙を豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ○進んで身近なことを表す語句の量を増やし、学習の見直しをもって読んだり書いたりしようとしている。

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
くまさんと ありさんの ごあいさつ	3	<ul style="list-style-type: none"> ○登場人物の様子を考えながら、楽しく音読する。 ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れる。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。 ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。 ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見直しをもって内容や感想を伝えようとしている。
ねこ、ねつこ	2	<ul style="list-style-type: none"> ○促音の読み方と書き方を理解し、句読点の使い方を理解する。 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 ○文の中における主語と述語との関係に気付く。 ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れる。 ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。 ○文の中における主語と述語との関係に気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に促音の表記、読点の使い方を理解し、学習課題に沿って簡単な文を書こうとしている。
ほんを よもう	3	<ul style="list-style-type: none"> ○読みたい本を探して読んだり、読んだ本について友達や先生に話したりして、読書を広げる。 ○昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむ。 ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に読書に親しみ、学習の見直しをもって感想を伝え合おうとしている。
ことばを つなごう	2	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、つながる言葉を考えて読んだり、書いたりする。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにする。 ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで身近なことを表す語句の量を増し、学習課題に沿って読んだり書いたりしようとしている。
たのしく よもう 1 あいうえおの うた	1	<ul style="list-style-type: none"> ○様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 		<ul style="list-style-type: none"> ○進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見直しをもって音読しようとしている。

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
ごじゅうおん	1	<ul style="list-style-type: none"> ○五十音表を見て、これまでに学んだ平仮名の学習を振り返るとともに、五十音表の基本的な特徴に気づく。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長音、拗音、促音、撥音などの表記の仕方を理解して文や文章の中で使っている。また、また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に平仮名を読み、今までの学習を生かして五十音表の特徴に気づこうとしている。
けむりの きしゃ	5	<ul style="list-style-type: none"> ○文章と挿絵を結びつけながら、場面の様子について人物の行動を中心に想像を広げながら読む。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。 ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。 ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。 ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって登場人物に手紙を書こうとしている。
のぼす おん	2	<ul style="list-style-type: none"> ○長音の読み方と書き方を理解する。 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に長音の表記の仕方を理解し、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
せんせい、あのね	2	<ul style="list-style-type: none"> ○話し言葉がそのまま文になることを知り、先生に話しかけたちの簡単な文章を書くとともに、敬体の文章に慣れるようにする。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 ○文の中における主語と述語との関係に気付く。 ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れる。 ○経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文の中における主語と述語との関係に気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで主語と述語との関係に気付こうとし、学習の見通しをもって簡単な文章を書こうとしている。

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
みんなに はなそう	4	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なことや経験したことから話題を決め、必要なことを思い出して、順序を考えて話す。 ○文の中における主語と述語との関係に気付く。 ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れる。 ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶ。 ○相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考える。 ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付け、今までの学習を生かして身近なことを話そうとしている。
たのしく よもう 2 がぎくげこの うた	1	<ul style="list-style-type: none"> ○様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 		<ul style="list-style-type: none"> ○進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け、学習の見直しをもって音読しようとしている。
よく みて かこう	3	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なものを観察し、気づいたことを簡単な絵や文で表し、書いたものを読み合って感想を伝え合う。 ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く。 ○経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にする。 ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉には、事物の内容を表す働きを伝える働きがあることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、学習の見直しをもって記録する文章を書こうとしている。
すずめの くらし	6	<ul style="list-style-type: none"> ○問いの文や写真に導かれながら、すずめについて説明した文章を読む。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 ○文の中における主語と述語との関係に気付く。 ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。 ○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える。 ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出す。 ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名及び片仮名を読み、書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見直しをもって分かったことや思ったことを紹介しようとしている。

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
しゃ、しゅ、しょ	2	<ul style="list-style-type: none"> ○拗音や拗長音に注意して、身のまわりから言葉を見つけ、正しく読んだり書いたりする。 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に拗音の表記の仕方を理解し、学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
たのしく よもう 3 きゃきゅきょの うた	1	<ul style="list-style-type: none"> ○様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 		<ul style="list-style-type: none"> ○進んで語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。
しらせたい ことを かこう	12	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なできごとや経験から知らせたいことを選び、簡単な文章を書く。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 ○経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にする。 ○自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。 ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する。 ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解し、学習の見通しをもって簡単な文章を書こうとしている。
は、を、へ	1	<ul style="list-style-type: none"> ○助詞の表記と語中の表記とを区別して理解する。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 ○文の中における主語と述語との関係に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。また、平仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解し、学習の見通しをもって簡単な文を書こうとしている。

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
とよかんへ いこう	2	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館の基本的な利用方法を知り、興味のある本を探したり、紹介し合ったりする。 ○昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむ。 ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。 	○読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。		○積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を紹介しようとしている。
おはなしの くに	2	<ul style="list-style-type: none"> ○挿絵を見ながら昔話などに興味をもち、読書をする。 ○昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむ。 ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。 ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。 ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有する。 	○読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。	○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。	○積極的に読書に親しみ、学習の見通しをもって本を読もうとしている。
おおきな かぶ	6	<ul style="list-style-type: none"> ○繰り返しの展開を楽しみながら、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げて読む。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。 ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。 ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。 ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有する。 	○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。	○進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって内容や感想を伝えようとしている。
えにつぎ	4	<ul style="list-style-type: none"> ○身のまわりのできごとや経験したことを、絵と文で表現する。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 ○経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にする。 ○自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。 ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する。 ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける。 	○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。	○積極的に事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、今までの学習を生かして絵日記を書こうとしている。

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現 主体的に取り組む態度	
なつの おもいでを はなそう	5	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の話の内容を受けて話したり,自分からすすんで話したりする。 ○言葉には,事物の内容を表す働きや,経験したことを伝える働きがあることに気付く。 ○音節と文字との関係,アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに,姿勢や口形,発声や発音に注意して話す。 ○身近なことや経験したことなどから話題を決め,伝え合うために必要な事柄を選ぶ。 ○相手に伝わるように,行動したことや経験したことに基づいて,話す事柄の順序を考える。 ○伝えたい事柄や相手に応じて,声の大きさや速さなどを工夫する。 ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き,話の内容を捉えて感想をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○姿勢や口形,発声や発音に注意して話している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」において,身近なことや経験したことなどから話題を決め,伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 ○「話すこと・聞くこと」において,話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き,話の内容を捉えて感想をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に話し手が知らせたいことを落とさないように聞き,学習の見通しをもって質問や感想を言おうとしている。
かたかなの ことば	2	<ul style="list-style-type: none"> ○身のまわりの片仮名で書く言葉や表記を理解し,正しく書く。 ○長音,拗音,促音,撥音などの表記,助詞の「は」,「へ」及び「を」の使い方,句読点の打ち方,かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また,平仮名及び片仮名を読み,書くとともに,片仮名で書く語の種類を知り,文や文章の中で使う。 ○身近なことを表す語句の量を増し,話や文章の中で使うとともに,言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き,語彙を豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○片仮名を読み,書くとともに,片仮名で書く語の種類を知り,文や文章の中で使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に片仮名で書く語の種類を知り,学習の見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。 	

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
けんかした山	6	<ul style="list-style-type: none"> ○場面の様子を想像しながら、お話を読む楽しさを味わう。 ○学年配当の漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使う。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。 ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。 ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。 ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○当該学年に配当されている漢字を読んでいる。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、学習の見直しをもって考えたことを発表したり文章にまとめたりしようとしている。
(みんなで たのしく よみましょう。)	2	<ul style="list-style-type: none"> ○役割を決めてグループで音読する。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。 ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。 ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。 ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで文章を読んで感じたことを共有し、学習の見直しをもって役割を決めて音読しようとしている。
かん字の はじまり	3	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字には、絵からできたものとしからできたものがあることを理解する。 ○学年配当の漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○当該学年に配当されている漢字を読んでいる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○進んで当該学年で配当されている漢字を読み、学習の見直しをもって読んだり書いたりしようとしている。
だれが、たべたのでしょう	7	<ul style="list-style-type: none"> ○問いの文と答えの文や写真と文の対応に気をつけながら、動物の食べ跡について説明した文章を読む。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 ○文の中における主語と述語との関係に気付く。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。 ○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える。 ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出す。 ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文の中における主語と述語との関係に気付いている。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見直しをもって分かったことや思ったことを話そうとしている。
たのしかった ことを かこう	13	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活の中から書くことを見つけ、簡単な文章を書く。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 ○経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にする。 ○自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。 ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する。 ○文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりする。 ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 ○「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで経験したことから書くことを見つけ、学習の見直しをもって文章を書こうとしている。

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
かぞえうた	2	<ul style="list-style-type: none"> ○数え歌をもとにして、漢字を使った数の読み方に慣れるようにする。 ○学年配当の漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使う。 ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにする。 ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○当該学年に配当されている漢字を読んでいる。 ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。 		<ul style="list-style-type: none"> ○進んで言葉遊びに親しみ、学習の見通しをもってリズムよく音読しようとしている。
かぞえよう	3	<ul style="list-style-type: none"> ○一から十までの漢数字を正しく読み、書く。 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。 ○学年配当の漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使う。 ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○当該学年に配当されている漢字を読んでいる 		<ul style="list-style-type: none"> ○進んで漢字を読み、学習の見通しをもって文や文章の中で使おうとしている。
しを よもう あめの うた	2	<ul style="list-style-type: none"> ○イメージの広がりが音読をととして、詩を楽しむ。 ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにする。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。 ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。
見つけたよ、いきもの ひみつ	6	<ul style="list-style-type: none"> ○生き物と触れ合ったことや見聞きしたことを思い出して書く。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 ○経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にする。 ○自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。 ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に経験したことから書くことを見付けたことなどから書くことを見付け、学習の見通しをもって文章を書こうとしている。
一 かかれて いる ことを たしかめよう はたらく じどう車	5	<ul style="list-style-type: none"> ○自動車の「やくわり」と「つくり」に気をつけて読み、乗り物のことを紹介する文章を書く。 ○「やくわり」と「つくり」に気をつけて、はたらく自動車について説明した文章を読む。 ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにする。 ○文の中における主語と述語との関係に気付く。 ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れる。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。 ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解する。 ○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える。 ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出す。 ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 ○「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって分かったことを説明しようとしている。
「のりものカード」で しらせよう	10	<ul style="list-style-type: none"> ○乗り物について、カードを用いて順序にそって簡単な構成の説明の文章を書く。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点 	<ul style="list-style-type: none"> ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで事柄の順序に沿って簡単な構成を

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
		<ul style="list-style-type: none"> ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」「を」「が」「に」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方、平仮名及び片仮名の読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 ○経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にする。 ○自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。 ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する。 ○文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりする。 ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「は」「を」「が」「に」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方、平仮名及び片仮名の読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○考え、事柄の共通性をもつて「おはなし」を書こうとしている。
えを 見て おはなしよう	5	<ul style="list-style-type: none"> ○絵を見て話題を見付け、友達と話したり、友達の話を受けて答えたりする。 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。 ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにする。 ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶ。 ○相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考える。 ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫する。 ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつ。 ○互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで話題を決め、学習課題に沿って少人数で話し合おうとしている。
かん字の ひろば ① 日つけと よう日	2	<ul style="list-style-type: none"> ○日付と曜日を表す漢字を正しく読む。 ○学年配当の漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使う。 ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○当該学年に配当されている漢字を読んでいる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に漢字を読み、学習課題に沿って音読しようとしている。
ニ しゃんと 文から、だれが なにをしたかを たしかめよう		<ul style="list-style-type: none"> ◎写真と文から誰が何をしたらかを、写真から言葉を想像してお話を書く。 			

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
うみへの ながい たび	10	<ul style="list-style-type: none"> ○白くまの様子を考えながら声に出して読み、写真と文から、誰が何をしたかを確認する。 ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く。 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。 ○経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にする。 ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。 ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。 ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 ○「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えた言葉を発表しようとしている。
きこえて きたよ、こんな ことば	6	<ul style="list-style-type: none"> ○写真をもとに、ふぎだしの中の言葉を考えて、お話を書く。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 ○経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にする。 ○自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。 ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する。 ○文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりする。 ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで想像したことから書くことを見付け、今までの学習を生かして簡単なお話を書くようにしている。
天に のぼった おけやさん	3	<ul style="list-style-type: none"> ○古くから伝わっている話を、興味をもって聞き、好きなどを音読する。 ○文の中における主語と述語との関係に気付く。 ○昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむ。 ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、学習の見通しをもっておもしろかったところを発表しようとしている。
かたかな	2	<ul style="list-style-type: none"> ○片仮名の書き方や使い方に慣れ、正しく使う。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に片仮名を読み、見通しをもって読んだり書いたりしようとしている。
かん字の ひろば ② かん字の よみかた	2	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字には、使い方によって読み方が変わるものがあることを理解する。 ○学年配当の漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使う。 ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○当該学年に配当されている漢字を読んでいる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○進んで漢字を読み、今までの学習を生かして使い方によって複数の読み方がある漢字を知ろうとしている。
こころ ほかほか 手がみを かこう	4	<ul style="list-style-type: none"> ○相手を決めて、気持ちが伝わるように手紙を書く。 ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く。 ○経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○粘り強く文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正し、学習の見通しをもって手紙を書くようとしている。

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
		<p>たりにて、伝えたいことを明確にする。</p> <p>○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する。</p> <p>○文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりする。</p>			
三 ばめんの ようすを くらべて よもう スミー	5	<p>◎人物の動きや場面の様子の楽しさを読み、読書の世界を広げる。</p> <p>○どのようなお話か考えながら読み、おもしろかったところを紹介する。</p> <p>○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにする。</p> <p>○読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。</p> <p>○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。</p> <p>○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。</p> <p>○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ。</p> <p>○文章を読んで感じたことや分かったことを共有する。</p>	○読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。	○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	○進んで場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、学習課題に沿って考えた言葉を発表しようとしている。
「おはなしどうぶつえん」をつくって、本をしょうかいしよう	5	<p>◎動物の出てくる本を読んで、友達に紹介する。</p> <p>○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く。 ⇒○知技(1)ア</p>	○【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。〔知識及び技能〕(1)ア)	○【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。〔知識及び技能〕(1)ア)	○【知識・技能】言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。〔知識及び技能〕(1)ア)
しを たのしもう ゆき	1	<p>◎イメージの広がりや音読をとおして、詩を楽しむ。</p> <p>○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにする。</p> <p>○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。</p> <p>○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。</p>	○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	○進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって音読しようとしている。
四 ぶんしょうと えを あわせて よもう みぶりで つたえる	14	<p>◎文章と絵の対応に気をつけながら読み、いろいろな身振りが表すことを説明する文(読み手)。</p> <p>○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く。</p> <p>○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れる。</p> <p>○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解する。</p> <p>○自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。</p> <p>○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える。</p> <p>○文章の中の重要な語や文を考えて選り出す。</p> <p>○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ。</p> <p>○文章を読んで感じたことや分かったことを共有する。</p>	○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。	○「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 <p>○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p> <p>○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。</p>	○積極的に文章の内容と自分の体験とを結びつけて、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。
文をつくろう	1	<p>○主語と述語の関係に気をつけながら、いろいろな文を作る。</p> <p>○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにする。</p> <p>○文の中における主語と述語との関係に気付く。</p> <p>○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解する。</p>	○文の中における主語と述語との関係に気付いている。		○進んで文の中における主語と述語との関係に気付こうとし、学習課題に沿って簡単な文を作ろうとしている。
かん字の ひろば ③ かわる よみかた	2	<p>○使い方によって漢字の読み方が変わるものがあることを理解する。</p> <p>○学年配当の漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使う。</p> <p>○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにする。</p>	○当該学年に配当されている漢字を読んでいる。		○進んで漢字を読み、今までの学習を生かして使い方によって読み方が変わる漢字を知ろうとしている。

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
五 きいた ことを 正しく つたえよう 学校の ことを つたえあおう	8	◎学校で働く人に、知りたいことを尋ねて、聞いたことをメモをもとに学級の人々に知らせよう。 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。 ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れる。 ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶ。 ○相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考える。 ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫する。 ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつ。	○姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。	○「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。 ○「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。	○進んで伝えたい事柄や相手に応じて声の大きさや速さなどを工夫し、今までの学習を生かして聞いたことを伝えようとしている。
ことばで つたえよう	3	○目の前にあるものや経験したことなどを言葉を使って言い表し、言葉の便利さやおもしろさなどを理解する。 ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付く。 ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにする。	○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。		○進んで、言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付こうとし、学習課題に沿って言葉で表そうとしている。
六 つたえたい ことを おもい出して か おもい出の アルバム	8	○経験したことや見たことを思い出し、わかりやすい文章を書く。 ○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方理解して文や文章の中で使う。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使う。 ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解する。 ○経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にする。 ○自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。 ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する。 ○文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりする。 ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける。	○長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方理解して文や文章の中で使っている。	○「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 ○「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。 ○「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。	○積極的に文章に対する感想を伝え合い、学習の見直しをもってよいところを伝え合おうとしている。
かん字の ひろば ④ にている かん字	3	○形の似た漢字を正しく読んだり、書いたりする。 ○学年配当の漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使う。 ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解する。	○当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。		○積極的に漢字を読み、学習課題に沿って形の似た漢字を正しく読んだり書いたりしようとしている。
しりとりで あそぼう	1	○二音節単位でつなげていく「しりとり遊び」のあることを知り、実際に活動してみる。 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話す。 ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにする。	○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付いている。		○進んで音節と文字との関係に気付こうとし、今までの学習を生かしてしりとりを楽しもうとしている。
七 ようすを おもいうかべながら よもう お手がみ	15	◎様子を思い浮かべて読み、登場人物に手紙を書く。 ○文の中における主語と述語との関係に気付く。 ○語のまとまりや言葉の働きなどに気を付けて文章を書く。	○文の中における主語と述語との関係に気付いている。	○「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。	○進んで文章を読んで感じたことを共有し、学習課題に沿って登場人物に宛てて手紙を

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準	
			知識・技能	思考・判断・表現 主体的に取り組む態度
		<p>○話のまとまりや言葉の書きなどに気をつけて自読する。</p> <p>○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付ける。</p> <p>○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。</p> <p>○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。</p> <p>○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ。</p> <p>○文章を読んで感じたことや分かったことを共有する。</p>	<p>○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p> <p>○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。</p>	<p>○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p> <p>○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。</p>
こくごの がくしゅう これまで これから	2	<p>○一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、楽しみながら学習できるようにする。</p> <p>○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶ。</p> <p>○経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にする。</p>	<p>○「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。</p> <p>○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。</p>	<p>○進んで話題を決め、今までの学習を生かして思い出したことや二年生でどんな学習をしたいかを共有しようとしている。</p>

… …… ……

